

館山「川と海」再生プロジェクト

有用微生物(EM)の力で川を浄化し、
館山の川と海をたくさんの生物が生きる場所に再生させる活動です。

那古船形地区では、ヘドロがなくなり、貴重な生物がよみがえりました！

2002年、船形地区の宇田川ととんどん川で毎週2トンの有用微生物(EM)活性液の放流を開始。



2002年の干潮時の宇田川の様子。ヘドロが堆積し、片側しか水が流れていなかった。



最近の宇田川では、干潮時でも両側を水が流れている。約500トンのヘドロが無くなったと推計される。



2004年夏、千葉県の絶滅危惧種ナミノコ貝が30年ぶりに復活した



2006年6月、那古海岸でサルボウ貝(赤貝の一種)を40年ぶりに発見。



2007年11月、宇田川で初めてサケの遡上が確認された。

これから、浄化活動を館山市全域に広げていきます！

①まずは、汐入川浄化を開始！



鯉が泳ぎカモが遊ぶ汐入川は、一見きれいですが、実は、ヘドロの堆積ポイントがたくさんあります。ヘドロは、悪臭を放ち海を汚す原因になっています。



この地点のヘドロは、有用微生物(EM)による浄化開始から1年で、分解・消滅させられます。

②順次、浄化ポイントを増加



館山「川と海」再生プロジェクト

【主催】

NPO法人 安房の海を守り育む会

〒294-0057 館山市市川名656 電話 0470-20-5022

【後援】

館山市／館山市教育委員会／館山市観光協会
／館山商工会議所／館山市商店会連合会／
房日新聞社／ジャスコ館山店／NPO法人シン
フォニック・コミュニティ

【汐入川浄化に必要な活動資金】

- (1)有用微生物(EM)培養装置 購入費:400万円
- (2)有用微生物(EM)培養液 材料費:200万円/年

館山「川と海」再生プロジェクト

2002年 船形地区どんどん川と宇多田川で毎週平均約2トンのEMの放流を開始。



放流開始当時の干潮時の宇多田川 汚泥が堆積し、片側しか水が流れていない。

海も湖も

 浄化は
 山・川から



放流開始から2年経過 汚泥が500トン減ったと推計され、石ころが露出しているのが分る。



アマモの群生状況

「安房の海を守り育む会」の活動

安房の海を守り育む会は「ふるさとに きれいで ゆたかな川と海を」を合言葉に、平成14年から活動を始めました。

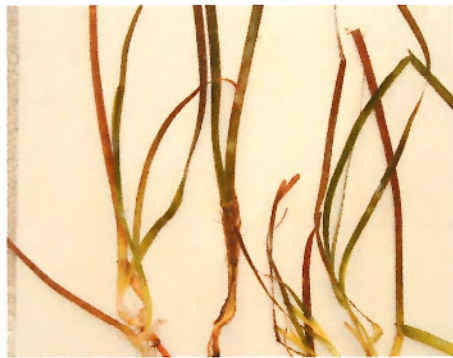
以来、毎日曜日休むことなく活動を続けてきました。有用微生物群(EM)の力で川を浄化し、昔のようなきれいで豊かな海にしようという活動です。



アマモの群生状況



2005年には海のきれいさの指標といわれるアマモが打ち上げられる



川の小さな生物たちが増えたため、様々な鳥が飛来するようになった





有用微生物群の培養器200リットル、400リットル ボランティア・中学生の参加によるダンゴ作り、10000個完成



培養倉庫

小学生による、排水溝に培養された発酵液を投入

ボランティア・中学生による発酵液投入(2トン)



2004年夏には絶滅危惧種ナミノコガイが那古～北条海岸で30年ぶりに復活

あとから来る者のために
 田畑を耕し 種を用意しておくのだ
 山を 川を 海を
 きれいにしておくのだ
 ああ あとから来る者のために
 苦労をし 我慢をし
 みなそれぞれの力を傾けるのだ
 あとからあとから続いてくる
 あの可愛い者たちのために
 みなそれぞれ自分でできる
 なにかをしていくのだ

坂村 真民

活動の成果

有用微生物群(EM)を放流してきた宇多田川、
 どんどん川では、堆積していた汚泥や悪臭が
 減少しました。川には小さな生物が増え、様々
 な鳥も飛来しています。上流部の正木岡地域
 の水路ではシジミやモクズ蟹、笹エビ、ヨシノ
 ボリなど絶滅したかと思われていた魚介類も
 復活しました。また、浄化した水が流れ込む那
 古海岸では、平成16年夏に絶滅危惧種ナミノ
 コガイが30年ぶりに復活し、サルボウガイ(ア
 カガイの仲間)が40年ぶりに発見されました。



南房総／館山 認定NPO法人 安房の海を守り育む会
 後援：館山市／館山市教育委員会／館山市観光協会／館山商工会議所
 館山市商店会連合会／房日新聞社／ロックシティ館山／イオン館山店